

SDGs連携協定プロジェクト 北海道下川町×吉本興業
フルーツマトのM-1チャンピオン育てまっせ！

4コマ漫画「トマト漫才師 下川はるかエイト」

トマト漫才師 下川はるかエイト

「ゴーニールハウスが、
おっぴろげステーション」

北海道下川町×吉本興業SDGs連携協定プロジェクト

原案:吉本興業 漫画:新屋エビマヨネーズ
監修:NONSTYLE 石田明

第1話「下川はるかエイト登場」



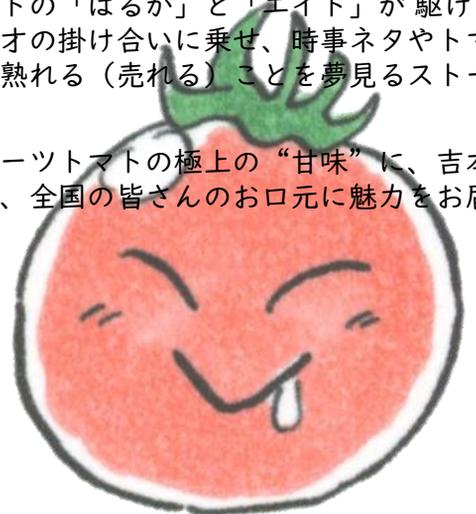
北海道の道北に位置し、真冬にはマイナス30℃にも達する厳しい自然で育つ糖度が非常に高い、北海道下川町で育つフルーツマト。

下川町と吉本興業株式会社は、2018年からSDGs推進における包括連携協定を結んでおり、取り組みとして2019年にはオリジナル新喜劇「しもかわ森(しん)喜劇」を町民の皆さんと作り上げ、今年2021年7月には、品川ヒロシ監督による下川町を舞台とした映画「リスタート」の公開します。

北海道内最大のフルーツマト産地・下川町を舞台にした4コマ漫画「トマト漫才師 下川はるかエイト」。

下川町で栽培されるフルーツマトの「はるか」と「エイト」が駆け出しの漫才師として、リズム良い漫才の掛け合いに乗せ、時事ネタやトマト栽培あるあるに触れ、真っ赤に熟れる(売れる)ことを夢見るストーリーとなっております。

この北の大地が生んだ下川町フルーツマトの極上の“甘味”に、吉本興業の“笑い”をスパイスに加え、全国の皆さんのお口元に魅力をお届けしてまいります。



4コマ漫画「トマト漫才師 下川はるかエイト」 概要



■タイトル 「トマト漫才師 下川はるかエイト」

■原案 吉本興業株式会社 ■作 遠藤敬 ■絵 新星エビマヨネーズ

■監修 石田明 (NON STYLE)

■あらすじ

NON STYLE石田明・完全監修！北海道下川町の実在するフルーツトマト「はるかエイト」が“トマト漫才師・下川はるかエイト”として4コマ漫画化！下川町で栽培されるフルーツトマトの「はるか」と「エイト」が駆け出しの漫才師として、リズム良い漫才の掛け合いに乗せ、時事ネタやトマト栽培あるあるに触れ、真っ赤に熟れる（売れる）ことを夢見るストーリー。さらに、連載を読み進めると、フットボールアワー後藤や大自然など、吉本芸人が登場する回も！爆笑必至の“トマト漫才師”がお届けする、サラッと読めて、クスッと笑える新しい4コマ漫才、乞うご期待ください！

■新星エビマヨネーズ プロフィール
鹿児島県出身。漫画家、イラストレーター。
SNSを中心に短編漫画やイラスト作品を公開。

Twitter : @shinsei_ebimayo

pixiv : <https://www.pixiv.net/users/1987622>

下川はるかエイトプロフィール

下川町のトマト農場で結成された、フルーツトマトによる漫才コンビ。クールなはるかは、ボケ担当。ちょっと上から目線のいたずらな発想でいつも相方を翻弄する。ツッコミ担当のエイトは、毎回乗せられつつも最後にはビシッと？漫才をしめくくる。漫才師として売れるのが先か、トマトとして熟れるのが先か、今日も日本最北端のトマト農園を笑いで温めている。



エイト



はるか

■配信スケジュール

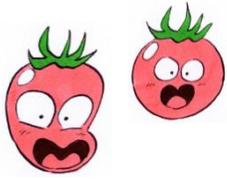
2021年6月7日（月）から毎週(月)(水)(金)配信

■配信メディア

「しもかわ観光協会」公式Twitter <https://twitter.com/nposhimokan>

■ホームページ

「トマト漫才師 下川はるかエイト」
https://www.town.shimokawa.hokkaido.jp/fruit_tomato/



下川町フルーツトマトの魅力



北・北海道に位置する冷涼で自然豊かな大地、北海道下川町。冬にはマイナス30℃にも達する厳しい自然が、フルーツトマトの豊かな恵みを育みます。朝晩の寒暖差も大きく、寒暖差によって糖度が非常に高く、身が締まり旨みと甘みが絶妙で、まるで果実のような「トマト」です。濃縮されたトマトの実は大変に甘く、程よい酸味の濃い味になります。一般的なトマトの糖度である、糖度4～5度を大きく超えて、7～9度ほどにまで糖度は上がります。夏、特に7月～8月と言うのは、本州より南の地域では味が乗りきらないのですが、昼夜の温度差が大きい北海道では、ちょうど最盛期になります。

“糖度8%”甘さの秘訣① 「朝晩の寒暖差」

北海道下川町の2月の気温マイナス30℃の中、ハウスの中は暖かく、トマトの苗はぬくぬく成長します。5月～6月には、朝は一桁の気温からお昼頃には20℃以上になることも多く、朝晩の寒暖差はトマトに良い影響を与え、その気候で作られた農産物は甘みが強く、みずみずしいフルーツトマトとなります。



“糖度8%”甘さの秘訣② 「水量を極端に抑えた栽培法」

フルーツトマトと完熟トマトの違いは、トマトはもともと南米のアンデスが原産、高原地帯のアンデスは冷涼、水が少なく、土地も荒れているところ、ほとんど水がない状態、栄養もない厳しい環境の方が美味しく育ちます。枯れてしまうギリギリのトマトの潜在的に持つ生命力を発揮させるために頭も気も使いながら惜しみない愛情そそぐからこそ、フルーツトマトの甘みへと繋がります。

“糖度8%”甘さの秘訣③ 「道内初の光センサー選別機で糖度8%以上のものだけ選別」

JA北はるかは、道内初の光センサー選別機によって糖度8度以上の安定した品質のものが全国各地に出荷されており、夏場の出荷量は道内一となっております。灌水量を極端に抑えた栽培法によって甘みや旨味の凝縮されたフルーツトマトはなんとイチゴ並みの糖度となります。



北海道・下川町×吉本興業 「SDGs推進における包括連携協定」 これまでの歩み



●下川町×吉本興業 SDGs推進における包括連携協定のはじまり

2017年12月に発表された第1回「ジャパンSDGsアワード」（SDGsの達成に向けて優れた取り組みを行っている企業・団体などを政府が表彰）で、最高賞にあたるSDGs推進本部長（内閣総理大臣）賞を受賞した北海道下川町と、特別賞にあたるSDGsパートナーシップ賞を受賞した吉本興業は、2018年7月よりSDGs推進における包括連携協定を結び、「プロジェクト“下川町株式会社”」をスタートさせております。

●「しもかわ森喜劇」の取組み

下川町の皆様と一緒に“Made in 下川町”で作るオリジナル新喜劇「しもかわ森喜劇（しんきげき）」を制作し、2019年10月に下川町公民館にてお披露目公演を開催。「しもかわ森喜劇」はセットや衣装づくりから公演までの一連の制作を下川町民が行い、お子様からご年配の方まで数多くの稽古を積み重ね公演を成功させ、エンタテインメントの力で町おこしを達成したこれまでに例のない取り組みとなりました。



●映画「リスタート」の取組み

「ドロップ」「漫オギャング」など数々のヒット映画を生み出した、芸人でもあり映画監督でもある品川ヒロシが、下川町をロケ地に映画「リスタート」の撮影を2019年8月に実施。下川町民100名を超えるエキストラ出演、朝昼晩の食事の振る舞いなど、下川町の皆さんの温かい心づかいが映画作りを支えてくれました。映画「リスタート」は2021年7月公開に向け、今後は下川町内はもちろん、全国でプロモーションが始まってまいります。

